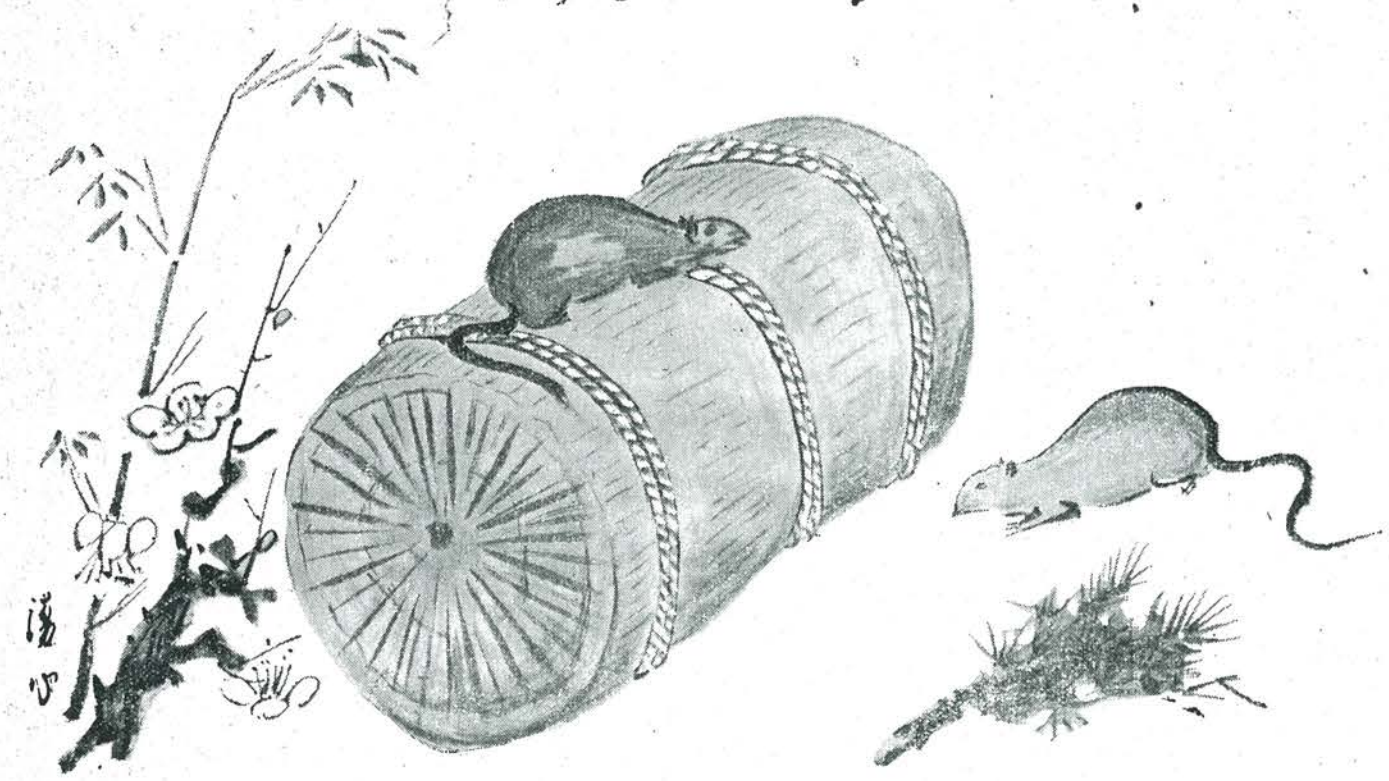
謹賀新年



穴内二区　原心一画

館報 大豊

発行所
高知県長岡郡
大豊村中央公民館
電話杉55番
印刷所
高知市本丁筋3丁目
みちや印刷所
無料配布

年頭の辞

光輝ある歳たらしめよう

大豊村長　三谷泉水

大豊村二万余の村民の皆様茲に昭和三十五年の新春を迎えまことにおめでとう存じます。

年頭に当り本年も皆々様が益々御健康で御幸福な歳をお送りになられますよう心からお祈り申上ます。

又村にとつても国にとつても益々光輝ある歳でありますよう念願致す次第であります。

顧りみますれば昭和三十年新村発足以来五年を経過し第六年を迎えたのであります。「和衷協力融合一体」を村造の根底として進んで参りましたのに拙い私で皆様の御期待に添はないことが多々あつたことを思い慙愧に堪えません。然しながら村議会をはじめ皆様方の温い力ある御支援御協力によりまして大村としての美しい姿をえがき出す基が漸く出来たことは喜びに堪えないところであり衷心より感謝申上ます。即ち心配しておりました村財政も毎年僅かながらも黒字をつゞけ健全財政を堅持しつゝ新村建設計画は着実に実施出来て産業の振興、教育施設、道路橋梁の整備、地辷防止対策、福祉事業、新農村事業の進展等大体予期に反せず進捗致しました。

昭和三十四年には国民健康保険の実施、久寿軒小学校の改築、怒田橋の架設、忠霊塔の建設等重要事業の支障なく行われたのも御協力の賜であります。

又昨年は各地に於ていまわしい教育問題を起しましたのに本村は正常教育を堅持せられますことは此上もない喜びであります。

これ偏えに教育委員会、各学校長並に先生方、父兄有志の方々が児童生徒の教育に真の御理解と熱意を持たれる結果であつて本村の誇と考えます。

何卒本年も格段の御力尽しの程御願い申上ます。

本村は新村発足するや地方財政再建特別措置法の適用を受け再建団体として不自由を忍びつゝ努力をつゞけておりますが皆様の御理解御協力により着々その効果を挙げ後二年で即ち昭和三十六年度を以て再建債を完済し三十七年度からは輝かしい独立の大体となることを確信致します。尚一層の御協力をお願い申上ます。

館報大豊は昭和三十年七月発刊以来茲に第三十七号の発行を見ましたが号を重ねるに従いその内容が充実しますことは嬉しい限りであります。私は創刊号の御挨拶に「新村の門出に当り教育委員会が公民館報を発刊し新村の発展に貢献されますことはまことに意義深く しかもその効果の大なるものゝあることを深く期待致します。公民館報の使命は多いわけでありますが、本村として特に緊要なものは旧村意識を一掃して村民が仲よく打つて一丸となり村全体を明るく進めるための御用をつとめることにあると信じます。館報の係の方は勿論村民の方達も館報の すこやかな成長にお力尽し下さるよう念願して止みません」と申し述べましたが過去五年間館報大豊は遺憾なくその貴い使命を果して今日に及んだのであります心から感謝申上ますと同時に今後益々御精進の程をお願い致します。

厳正公平な批判で村民世論の代表として村治発展に努力を

大豊村議会議長　鈴木友茂

今期議会の初定例村議会で大きく燃つた磯谷山村有林処分問題も今では全く落付いて参りました。手続上多少遺憾な点があつたにしろ洗うべき者は司直の手でも洗い、行く所まで行つたのですが財源的には村の大きなプラスとなつています事は皆さんも館報等に依り御承知の通りであります。

尚今後の経営如何に依つては遂次予期以上の被益する所がある事を期待しています。幼令林及伐採跡地の整備等既存村有林整備と共に成功されて参ります事に依つてであります。

議会陳情

現在及将来に及んで広大な面積を誇る本村は治政の行き届かない所が多々あるかに考えられます。それは毎期の村議会に提出される陳情書に依つても明かでありますが普偏的に均霑的に明るい明日への村造りは執行部議会共に常に心掛けている所であります。

村民の皆様明けまして御芽出度うございます、大豊村も発足致しましていよ〳〵五週年の新春を迎えたことになります。顧みますれば発足当初から建設への多事な波乱多い五ケ年ではありました。人の子供も生れて五年ともなればいよ〳〵一人歩きの健実さを増して何事も自らの創意と独力でやつて見度くなる頃であります。茲に大豊村も生れて五年、新生への歓喜に伴う試練修練は重ねて参りましたヨチヨチとでも独り歩きの出来る頃と思います、此の意味で創意飛躍発展すべき年であります。

取り残されている重要案件も一切解決へ踏み切る年よと心から喜んでいます。

磯谷山と村有林

川之江線

あれ程やかましく建設計画の主眼でもあつた大豊川之江線も未だに一歩の前進も見ていませんが是も年を新にして今年こそは変つた構想でその着工実現へと意気込んでいる次第です。

産業・教育・交通

明朗にして大和の三谷村政の施策が浸透します様議会は議会の立場から厳正公平な批判に立ち強力な推進母体として皆さんの輿論を代表して産業に教育に交通文化に堅実な財政の確立に取つて以つて村民福祉の助長となり村発展に寄与する一切の業務ば村財政のゆるす範囲に於て重点的に強力に推進したいと思います。

現今吾国経済界一般を何だか好況めいて参りました。

製紙原料、木材、木炭、其他本村にゆかりの深い産物が好況に恵まれつゝあります事は村民の皆様と共に喜ばしい現象でありまして此際村を挙げて一切の機関機能とも密接なる有機的連繋を保ち苦汁の過去の経験を生かし合理的な生産擁出販売へと持つて行き度いものです。新興の冷涼地園芸なども大いに考慮に入れねばなりません。此の際村民の皆様、大豊発展進の最良の年でありますます様御健康を祝福致しまして村のため至誠ある御協力を御願いする次第であります。

地形的にも地理的にも恵まれない急傾斜地の村であり後進追駆の里ではありますが緑有つて此地に生を受けた郷土であります。誰が郷土を憎めましよう。誰が郷土を捨てられましようか、今日の生活に不都合があれば明日の住み良い郷土を形造つて後死なんの覚悟を持して明日への明るい楽しい村造りに一日一日一年一年想いを新にして進もうではありませんか。

大豊数え歌　鈴木掃雲

一つとせ一つに結んだ大豊の　村は五年の春だものいよ〳〵飛躍の時が来た

二つとせ二つの力合はすのは執行部人や議会人　村発展の基盤なせ

三つとせ三谷村政今五年　弐万と弐千の和の政治

理想の村へ明るさへ

四つとせ四つの村が協和して合併茲に五星霜　進む歩調の堂々と

五つとせ五つに余るその名所　薬師大杉祝ケ森

テレビの塔や工石山

六つとせ六つの駅は大豊の　その村落の玄関で

あらゆる文物の出入口

七つとせ七つになつたら大豊も村財政の基礎が成る

再建整備の成果村

八つとせ山又山の村なれど　ゆるがぬ基礎の理想郷

建てよ明るい村作り

九つとせここを流れる吉野川大豊弐万の団結だ

若人よ来れ先頭に　十とせ時は今なり五星霜

後進村の悲運をば　開拓せんの意気示せ

開拓者募集と自作農創設資金融資に努力を

大豊村農業委員会会長　豊永尚文

四年連続の豊作と絲偏金偏の神武景気を遥かに凌駕するブームに咒町は天井知らずの株式値上りの好景気の反面伊勢湾台風の被害に依る数力の罹災者が今尚苦難の生活を強いられて居る苦楽様々の一九五九年も一夜明くれば初日の出と共に輝やかしい一九六〇年の新春を迎えたのである。

偖て毎年早々は今年はやるぞと張り切つてはいるが、実の所誰でもが今年は今年はとて暮れにけりの龍頭蛇尾に終るのが通例であるが、今年は例を破つて緊禅一番目分達に与えられている課題に就いて強力に運動を推進したい。

農業委員会の任務は私共より村民の皆様の方が遙かに良く御理解になつていられる通りでありますが農業委員会等に関する法律第一条に明示してある如く農地問題の外に農業生産力の発展及び農業経営の合理化を図り農民の地位の向上に寄与するとなつて居り、又史に農業及び農村に関する振興計画の樹立と其の実施の推進農業技術の改良生産の増進、我々農民生活の改善、調査研究等を主たる任務として居るのでありますが、予算と人員特に技術的な面で制約を受けますので経済農林課、農業改良普及所、各農協とも相協力し合つてこそ此の目的に沿う事が出来ると信じている。

一、従来実施されて涙ぐましい努力の集積であるに拘はらず場所に依つては余り香しからぬ成績である未墾地開拓農業に就いては特に本年は四国西南部綜合開発案に依る土佐清水市足摺岬の全部機械化に依る開拓団入植地の検分と調査とを行い開拓希望者の募集を他の町村が余り手を付けていない今の内から実施する。

二、自作農創設資金の融資を受けるに就いては優先的に取り扱はれる事になつて居る自作農協会の設立と其の後の指導に重点を置き殊に此の融資問題に就いて昨年十二月の許可割当額と件数が従来の其れを遙かに上廻つたのは原因に幾多の事情は有ると考えられるも希望者を集めて、記載方法の講習を行つた事も結果から見て一つの要因になつたと考慮せられるので、此れを更に強化し成る可く希望者の満足の行く様にプランを樹てて農民生活の向上に資する。

右の通り二点に焦点を合せて農民に直接につながりの有る身近かな問題と取組み大豊農業振興政策の一助となれば誠に望外の幸いです。昭和三十五年新春初頭に当たりいさゝか希望と抱負を述べ一頭の辞に代える次第です。

年頭の辞

眼前の勤評問題より児童教育の向上に

最善を期したい

大豊村教育長　長野政高

村民の皆様あけましてお目出度うございます。

来る年毎に今年は今年こそはと色々と希望やら計画やら心に描くことでございますが仲々思うようには捗らないことが多いのでありますす、然し理想は高くもたねばなりません。

昨年は大体農産物も特定の物を除いては豊作であり大豊村の農家の収入の重要な地位にある諭も当初に思つたよりは高値であり木材、木炭、製原紙料等も例年よりは高値で農家の方々も若干は経済的に恵まれた年であつたと云えるではないかと思はれます。又颱風や洪水等の被害も極軽微で一言にして云えばまあ〳〵よかつたと云えると思います、幸だつたと思います。

然し私共の教育界にとつては波瀾と申しますか苦難の年であつたと思います。

校舎建築

たゞおめでたいのは久寿軒小学校の改築であります、強い雨でも降つたら教室は雨漏りで児童達は机の位置を換えねばならないし、瓦が何時頭に落ちかゝるやらわからんし暴風の時は父兄達の御心配は想像にあまりあるものがあつたと思います。大体建築が決まりそうになると校下の方々は私共の知らぬ間に一九〇余坪の敷地を労力奉仕で完成し、当敷地は校下の方々の浄財によつて買収して村に寄附して下さつたことは誠に感謝に堪えない次第でございます。

勤務評定

扨て村民の皆様に御心配をお掛けし尚且つ御協力下さいました教職員の勤務評定の実施についてゞありますが大豊村の教育委員会としては地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第四十六条に「県費負担教職員の勤務成績の評定は県教育委員会の計画の下に村の教育委員会が行うものとする」と規定されておりますし又全国的に見ても四十六都道府県の中で僅かに三、四県を除いた外は実施しており、しかもその提出状況は極めて良好で九〇%以上一〇〇%のものが多い状態でもあり更に小中学校の教員の服務の監督は村の教育委員会がしなければならないことにもなつているし、実施せざるを得ない立場であります。

然し教職員組合は絶対実施は反対で多く教員諸氏は校長先生には書かさないよう又村の教育委員会に対しては延期して貰い度いとか職務命令は撤回して貰いたいとか或は校長先生が評定書を出さない場合があつても処罰の内申はしないようにとか云つて九月から十月に掛けて六回程村の教職員組合の代表と村の教育委員会とが話合いをして成る可く納得して貰うよう最大の努力は尽しましたが、とうとう妥結点を見出すことが出来ず十月二十五日は午後一時から五時までの約束で話合いを初めた処、日が暮れても八時になつても仕舞がつかずとう〳〵十時すぎに警察官の御世話になつて帰宅致しました、誠に教育界で警察の危介になることなどは残念であり村民の皆様に面目ない次第であります此の間に於きましては校長先生も教員諸氏も随分と時間的にも労力的にも無駄骨を折つて教室も留守にして児童生徒も迷惑したことと思います、大豊村には校長先生は十八名ですが規定の期限の十月十五日に提出した者が五名、十月三十日に提出した者が七名、十一月一日から十一月十七日までに提出した者が六名でありました、これで一段落の形でしたが尚若干の問題はありましたけれども村内一六〇余名の先生達は勤勉手当も規定通り貰つたし殊に校長先生の処罰の内申をしなくて済んだことは何よりの幸でした。勤評問題については各学校の父兄有志の方々の御支援と御尽力によりまして一〇〇%提出になりました事に厚く御礼申し上げます。

教育に父兄の協力を

一九五九年の波瀾の多かつた年を回顧致し一九六〇年は前轍を踏まぬよう最善の努力をしなくてはならない訳であります、私共の眼前には勤評よりもつと〳〵重要な問題が山積されております勤評問題に時間や労力を使うより児童生徒の教育の向上に最善の努力をしなくてはなりません、村民の皆様の御協力を御願い申上げますと共に皆様の御多幸を切にお祈り申上げます。

恐しいジフテリア

〝すでに大豊村で二名死亡〟

＝先ず予防注射を＝

昨年度はジフテリア患者が県下に相当数発生して死亡者が出ておりますが本年度も県下に多数発生しております。

大豊村にも明頭ジフテリアが既に七名発生して二名死亡しています。これらは主に杉校下に発生し、その中でも生徒に多く、一人発生すれば次々と伝染していますので今後は相当の注意を要します。

症状は、先づ熱が出て、のどが痛み、せきが出ますので一寸考えるとカゼだと思いますが、最後には鼻血が出て来ます。鼻血が出ると相当進んでいます。

潜伏期間が二日から五日間位ありますので症状がすぐには現れない場合もあります。

伝染経路は保菌者の使用した食器類及び咳などでジフテリア免疫を持たない人の喉や鼻に菌が附着した場合に伝染します。特に乳児より中学生迄の子供に伝染し易いものです。これからは益々寒くなりますので発生のおそれが予想されます。病気にかゝつては、すでに手遅れと云う場合もありますので予防注射をして伝染を防ぐことが先づ第一です。そしてカゼ位と油断をせず、一寸おかしいと思つたら必ず医師の診察を受ける事が大切です。

（大豊村役場厚生保険課衛生主任）

第4次昭和34年度自衛官募集

大豊村厚生保険課

一、応募資格＝昭和十年三月二日から昭和十七年三月一日迄の出生者（男）
二、試験科目＝中学校卒業程度　国語（作文含む）数学　社会　身体検査及口述試験
三、採用時期＝昭和三十五年三月下旬（一部五月）予定
四、受付期間＝昭和三十四年十一月二十日から昭和三十五年一月十四日迄
五、試験期日＝昭和三十五年一月十七日より一月三十一日の間とし日時は志願者に通知する
六、志願票は役場名支所及出張所にあります、志願票は厚生保険課宛送付下さい
尚験試当日志願票持参しても受験出来ます

大豊村議会

常任委員会審議事項

大豊村議会各常任委員会は前回に引続き、それ〴〵附託されていた各種陳情について次の通り審議を行つた

総務委員会　十二月十五日

①佐賀山村有林払下げについて…西川部落（不採択）
②急傾斜地帯団体営灌漑排水事業の廃止による農林漁業資金償還方、村費助成について…八畝部落（再審議）

教育厚生委員会　十二月十九日

①国宝豊樂寺薬師堂保持活用補助費増額について（採択）
②西峯中学校々舎増築、校庭拡張について（採択）
③穴内小中学校改築について（採択）

大豊村民生委員

五十二名が厚生大臣より委嘱

大豊村民生委員は、かねてより、村長の任命する推薦会で銓衡していたが、この程決定、県知事の推薦によつて十二月一日付をもつて厚生大臣より委嘱された。委員の任務は①常に住民の生活状態を調査しつまびらかにしておくこと。②保護指導をすること。③社会福祉事業施設と密接に連絡しその機能を助けること。④社会福祉事業法に定める福祉に関する業務に協力すること、となつている。尚、委員の任期は三ケ年である。

委嘱された委員名は次の通り。（）内は担当部落。杉本恒章（北川一、二区）、西岡澄子（本村）、西岡豊光（峰岡盛重（久寿軒）、西岡正継（馬瀬）、小川泰良（小川、枯谷）、野島馥（杉）、内田義盛（川口南、高須）、佐々木義朝（大王上、下）、秋山好啓（日浦）、豊永忠男（津家、檜生）、宮内正男（鶯原川口）、秋山清高（谷一、二、）、小笠原照子（一の瀬）、内田長五郎（立川三谷）、前野高貞（立川中央）、小笠原久盛（立川中和）、刈谷、仁尾ケ内）、大坪利幸（和田）、佐々木さとる（穴内一、二、三区、式岩）、徳弘治盛（目付、磯谷、尾生）、山中利信（舟戸、西寺内）、松浦都智恵（上東、中屋、黒石）、高橋豊朝（西梶ケ内）、吉川芳馬（奥大田）、上池広海（西土居、佐賀山）、都築万吉（安野々、東梶ケ内）、上村鹿衛（上桃原）、北村長徳（永淵、柳野）、小笠原安明（大田口、石堂）、豊永菊水（川戸、西久保）、河野潔（東寺内）、上村弘実（連火、下桃原）、豊永尚文（大久保）、三谷優（西庵谷）、西谷茂（東庵谷）、中西登（大砂子）、三谷築波（三谷）、大家勉（東土居、八川）、岡崎茂義（筏木）、吉川正一郎（岩原）、小松幸喜（大平、大滝）、上村宏（落合）、大坪義興（川井）、森下竹義（中内、高原）、三谷登貴徳（土居、野々屋）、岡村八男（久生野）、三谷久野（大畑井、沖）、三谷軌親（蔭柚ノ木）、豊永美雄喜（三津子野、発電所）、森尾国穂（怒田、南大王）、小笠原茂（川又、立野、八畝）、三谷徳太（粟生、西川）

立川に婦人学級開講

立川婦人学級が去る十二月十五日午後一時より開講された。

当日は高須、長野清氏を講師に料理講習会の後、小学校で開講式を行い試食をしながら、などやかに歓談をした。

今後は月一回開講の予定。

麦

これからの管理作業

高知県農業試験場山間分場　森信章

はじめに

今年も順調な気象状況に恵まれ、予定通り麦の作付も終られた事と思います。所で麦の増収安定を図る為に、今後特に大切であります。これからの麦の管理作業について簡単に説明を加えてみましょう。

麦は発芽してから穂が出る迄の長い期間を生育期間と云いますが、その間の管理、即ち手入の良否は収量に大きな影響をもたらします。手入の主なものとしては中耕、土入、土寄、除草、追肥等がありますが、更に土壌条件や、栽培法、気象状況等によつて、妻踏も重要な作業に加えられます。そこでこれらの作業を合理的に組合せ、実施する事によつて、より大きい効果がもたらされ、年柄に応じ、或は発芽後の生育の経過に応じて、適期に適作業が行はれると、麦の生育を促進し、順調に健全な生育をさせて、始めて多収に導く事が出来ます。

以後麦の生育につれて順次行はれる作業を、時期別に述べますと、先ず最初が暮の手入、次が冬の間の手入、最後が春先の手入となりますが、冬の間の手入は暮の手入と殆んど同一である ので省略致します。

暮の手入

冬に入る前の手入ですが、麦の良否は暮から春先にかけての生育の良否によつて決定されます。だから手入のこつは、この期間に麦株に充分の勢力を与える事が大切です、十二月下旬迄に麦踏、中耕、土入等の手入を一通り行つて、寒い冬の到来を待つようにせねばなりません。

この時期の麦踏は、根元が乾燥すると、根の発育と分蘖を妨げるから、表土の乾燥を防止すると共に、霜柱によつて株の浮上りを防いだり、寒さの害から護る為に行います。

麦踏は日中表のしなやかな時に行うのが良く、又早播のものとか春播性の高い品種、伸び過ぎた麦、乾燥する場合などは早目に充分行うのが良く、晩播で芽が出たばかりのものは傷がついて傷み易く、又畑の湿つている時や、朝夕の寒い時は中止した方が良い。

暮の中耕は播種当時の整地の不充分であつた点を正し、作条の周辺の土を軟かにし、耕起された当時の状態に保つて空気を導入し、乾燥、肥料成分の有効果を計つて根の発育に都合の良い条件を与えて、土入と相俟つて分蘖を増加させる効果があります。この時期には、麦の根は畦間に大して伸びていないので、中耕によつて根の切れると云う事を考に入れるより、根の発育に都合の良い状態を準備しておき、冬の間に少しでも根の発育を促進さすと同時に、来るべき春に充分な根の伸長を計る目的で中耕して下さい。中耕には労力節減の意味からも、樋力畜力、又は機械力を利用される様に努めて下さい。

暮の土入は防寒と覆土の均一化を図り、作条中の除草の目的で行うので決して深くしてはなりません。大体一糎程度の厚さで播種後三〇日〜四〇日位が適期です

春の手入

冬の悪い状態から春になれば、麦も成育の最盛期に入つて、分蘖も増加し、茎も肥り、草丈も伸長する。従つてこの時期の中耕、土入の効果も目に見えて現れます。特に土が凍つたり、雨が多くて冬の手入の充分出来なかつた所では、この時期の手入によつて、冬のおくれた生育の促進を図らねばなりません。しかしこれらの作業を行う場合、霜機械的に、或は習慣的に行うと云うのでなくて、気象状態や、生育状況に応じた活きた手入を行う事が大切です。

この時期の麦踏は、早春の乾燥防止であるので早春実施すべきであるが、初穂の形成された後は実施してはなりません。

春の中耕は土壌状態を更新し新根の発生や、根の深く入る事を計り、肥料の吸収とか、結実期間の乾燥に対する抵抗力を増す事になります。冬の間の中耕は、低温と云う条件に対抗して、根が少しでも苦労少く伸びるに都合の良い程度の援助しか与えられないが、春になると表の方から積極的に旺盛な発育をして来るので、中耕の効果も大きく目立つてくる。この時期の土壌状態は、播種当時の整地した土壌状態が雨や或は冬の期間の風化によつて土が細くなり、それが自然に固つて整地前の状態にもどりつゝあるから、再三中耕して土をほぐしてやると、根の発育に必要な空気が供給され、水分関係も調節されるので、根は旺盛な仲長を始め吸収力を増加して麦全体の生育を促進致します。

春の土入は株の根元に土が入り込み株際の乾燥を防ぎ、各々の茎や葉がお互いに疎開出来て、日光の照射、通風もよくなり、健全な生育が出来る事になります。又之と同時に当時の暖い気温や、充分な水分などの好条件が揃うと、急に芽生えて来る無効分蘖の発生を土で埋めて抑え、生育中の有効分蘖を守り立てて行く効果も大きく、又畦間の乾燥した土を作条中に入れる事は、肥料成分を麦にとつて最も吸収し易い場所に返す事となり、同時に除草の効果も発揮され、土寄と共に倒伏防止の効果も大きくなります。

三月中下旬頃になつて最後の土入を終つた後、土寄を行うが、土寄は土入と反対に茎を左右から寄せ集める結果となりますので、土入を充分行はずに、たゞ倒伏防止の為に過度に土寄すると、麦の健全な生育を稔実の上にもよくないので、土入は充分に行つておく必要があります。しかし稈の長い倒れ易い品種を栽培した場合とか、降雨その他の事情で土入れが予定通り実施出来なかつた場合にはやむをえずこの土寄によつて、充実に被害の多い倒伏を或程度防止出来ます。

追肥

麦の施肥量のうち燐酸加里は全量基肥として施用するが速効性窒素肥料は、基肥と追肥に別けて施肥するのが普通です。麦は春先気温の上昇と共に急速に生長するので、秋から冬にかけての肥料の吸収量は比較的少く、基肥に多量の硫安等の速効性窒素肥料を施用した場合は、麦に吸収されずに流亡したり或は土壌中に残る量が多くなり、又苦しい冬期に温暖多雨の気象条件となれば、窒素成分の損失は非常に多くなります。

このような点より傾斜畑では窒素肥料の半分を基肥に、残り半分を追肥として施用致します。

追肥は二回に別けその第一回目は一月上中旬頃迄に施肥します。この第一回追肥は期間の生育を促進させ冬、特に有効分蘖の発生及肥大に必要であるのでおくれないように与えて下さい。

又第二回目の追肥は所謂穂肥で三月上中旬頃の幼穂形成期に麦の生育に応じて施用し、いずれも追肥は中耕土入と同時に実施し、中耕、追肥、土入の順に行つて下さい。

農業講座

粟生の定福寺

十二体の諸仏像が重要文化財に指定有望

文部省、県教委の調査行なわる

大豊村には、現在国の指定をうけた優れた文化財が三つある。二つは大田山大願院豊樂寺の薬師堂と、堂に安置された薬師、阿弥陀、釈迦の木彫仏像御三体で、高知県に数ある文化財の中でも、国宝に指定されたものは二つしかない。一つは高岡郡日高村小村神社の宝物「金銅荘環頭大刀」と、一つは我が薬師堂の建造物である。御仏体もまた三体共に重要文化財に指定されている、今一つは、特別天然記念物に指定されている日本一の大杉である。

これにこの度、粟生の定福寺に安置の諸仏像が、新たに国の重要文化財として、指定の運びになりつゝある

これが正式に指定になると この草深い山村に、また自慢の種が一つ増えるので、まことに喜びに堪えない。

この仏像は本月十六日、文化財保護委員会美術工芸課文部技官倉田文作及県社会教育課主事池田眞澄両氏の調査によつて明らかにされたもので、御本尊阿弥陀如来、脇侍薬師如来、地蔵菩薩、脇立不動明王、多聞天王、聖徳大子、六地蔵尊等十二体の諸仏で、何れも今から約八百年前藤原時代の末期、仁平年間の作で、御本尊阿弥陀如来の柔和円満の微笑、薬師如来に見る慈悲の相、地蔵菩薩の温容、肩や胸の豊満なくくらみ、時代を同じくする寺内豊樂寺の諸仏と、その様式等よく似ているといわれる。殊に脇立六地蔵尊は、全国でも未だ曾つて見ない、珍らしい仏像で、その自由奔放な構図は、倉田技官をして之は良い掘出しものだと、感歎久しうせしめた程である。

定福寺は眞言宗新義派に属し寺号を、粟生山定福寺と云う。今から千二百三十五年の昔、神亀元年（七二四年）高僧行基によつて寺内の豊樂寺、五台山竹林寺、宿毛市平田の延光寺とともに建立せられたといわれる昔時は本堂、仁王門、教院鐘楼、御長屋等並び立ち結構壮麗を極め、その檀徒は豊永郷三十六村中二十五村に亘り、西光寺、中之坊等の末寺を持ち、天正十六年（一五八八年）の長宗我部地検帳によれば、粟生、川平等に寺領を有し、慶長六年（一六〇一年）山内一豊公御国廻りの節、同寺に休輿の際にも寺領の寄進があつたといわれる。以後代々藩主の崇敬の厚かつたことも、棟札等によつて知ることが出来る。然し乍ら安永年間火災に罹り、堂塔諸記録を失つたが、仏像は難を免れ、安永八年（一七七九年）藩主山内豊雍の時再建される。

現在の本堂はこれである。その後明治十八年再び火災にあい、本堂を残す以外は全部烏有に帰したことは、まことに惜しみても余りがあるが、近時住職の努力と檀信徒の協力により、本春には大梵鐘の鋳造復元がなり、続いて仁王門再建の計画も着々と進行中で、諸建物が次々と昔時の姿に復元されることは、諸仏像の重要文化財に指定されると期を同じうして誠に意義深いものがある。

一九五九年十二月十七日　都築建康

写眞は　六地蔵　左端はその内の大写し

大杉小学校々歌

中村大王　石原裕子さん　1位に当選

館報三十四号（九月三十日附）で公募した大杉小学校々歌は数十点の応募作品の中から学校、PTA役員会村教委三者により厳選の結果次のように決定した。

尚校歌は直ちに高知大学助教授橋本正夫氏（橋本收人役女婿）に依頼してあり三学期に開かれる同校の学芸会当日発表会を行う予定又同校は本年九月校章を同校教諭栄枝利実氏によつて作成し六年生の卒業記念として校旗を制定、ここに校旗校章、校歌がそろつたことになり、学校並びに四百児童の象徴として、今後の教育充実をめざして、教員、児童、父兄共々に張り切つている。

一、当選　大豊村中村大王高知大附属中学三年　石原裕子

1、八坂の森の深みどり
空にそびえた大杉の
不動の姿、雄々しさは
学ぶ僕達、私たち
皆の希望と光です

2、強いからだとつよい意志
知恵をみがいて四百の
よい子がかたく手をにぎり
清く明るい校風を
永く後まで伝えよう

3、楽しくはげむ此の日々を
胸にきざんでさわやかな
山のこだまと共々に
名も大豊の此の村を
背負つて立とう

大杉小

大豊村生活改善グループ　第四回　料理演示会開催

大豊農業改良普及所

去る十二月十五日午前十時より大豊農業改良普及所に於て第四回生改グループ料理演示会が開催された。

これは一年間グループ活動の中で研究した調理方法の発表をしてお互いに技術の交換をする事により一層の向上をするべく毎年一回行つているものである。

参集者は約五〇名、演示グループは七グループ、内容は次の通りである。

★怒田　ひかり会　いもけんぴ、春雨の三杯酢

★上桃原　あやめグループ　松笠と羽子だんご、さんまの南蛮漬、さつま揚げ

★三津子野　いこい会　大豆コロッケ、山芋の天ぷら

★和田　なでしこ会　大豆の醤油漬、白菜、ほうれん草と卵のサラダ、小魚の丸煮

★本村　舟石会　みそおでん、かぶの風味漬

★梶ケ内　生改グループ　昆布巻かまぼこ、炊込みチキンライス、即席福神漬

各グループ共二名～三名で共演、出演時間は一グループ三〇分。

山間地帯の農家にふさわしく、自家生産品を利用したそれ〳〵創意と工夫に富んだもので色彩盛り付け共によく考えられたものばかりであつた。唯発表技術の点で例えば説明の仕方、仕事の手順とか、今一段の工夫をされたいものがあつたが各グループ共終始熱演され参集者の方たちに大変好評であつた。

しかし残念ながら村内に適当な会場がなく、こうした催しの為には最も悪い条件の中で、出演者は大層苦労されたようである。がそれにもかゝわらず、これだけの成果をあげ得た事は、日頃ちみではあるがグループ活動の中での食生活改善の問題がグループ員一人一人の生活の中に浸透しているという事を強く感じる事が出来た。

当日会場には研究作品の展示も併せ行い改良作業衣や防寒着と保存食等作品の発表も行い好評をはくした。午後は作られた料理の試食をしながら参加者全員が感想発表や意見の交換をなし最後に地区農研連合会長森下龍平氏より出演グループに対し参加賞が送られ午後二時半盛会裡に閉会した。

尚今後益々実践活動をつゞけられ、来年度は一層進歩して、日常生活の中からにじみ出た数多くの作品を発表されるようお願いすると共に、将来は村行事として盛大に開催出来る方向に進められるよう村民一般の方々の御理解と御協力をお願いする。

ガソリンカー乗入れ　遅くとも十月頃から実施のもよう

日刊新聞で既報の土讃線池田、山田間ガソリンカー乗入れについては、本村も大きな関係があるので去る十二月十五日から四日間行なわれた試験の際、停車場などについて村長、議会、教委より国鉄当局に対し陳情をした。

もと〳〵本村は合併による大村となり、現在の列車運行状態では非常に不便を感じるので、数年来陳情を続けていたもので、これが実現をされることゝなれば非常な喜びである。

国鉄の予定では、現在の試験成果をみて、車の種類、運行時間、区間を決めるが大体遅くとも、三十五年の十月頃から、一時間内至三十分毎に運行、停車駅は現在の六駅の外、北川口、日浦、上大王、上東の四駅になる見込みが強い。

大滝へ　愛媛牛二十頭を導入

最近肉牛の生産不足と消費量の増大により、和牛の肥育熱が高まりつゝあるが、当大滝農業改良組合（三十二戸）では一昨年より小松茂、小松俊男氏等を中心として肥育牛を主とした畜産の研究を進めてきたが特に素牛の選び方によつて利益が左右されることを知り、去る十一月三十日の肉牛せり市を機会に優秀な素牛の共同購入を申合せ早速県畜産課と村の指導を得て去る十二月二十日愛媛県より第一回の優秀な素牛を二十余頭（約一〇〇万円）を導入した。

現在それぞれの農家に引取られ飼育されている。これが成功すれば今後も引続き導入して今までの長期肥育を中期肥育にきりかえて生産効果をあげると共に大阪市場へ直接共同出荷を行うことも考えられている。

尚本地区は大豊村の有畜農家モデル地区として指定されている。

★一月十五日は成人の日★　みんなで祝福しよう

一月十五日は国家祝日「成人の日」です。

この日は、大人になつた事を自覚し自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日です。

大豊村での本年の該当者は男一一五人、女一三一人、合計二四六人となつています。

当日は、大豊村教育委員会主催のもとに、これら青年男女を祝い励ます行事を左記の通り計画していますが該当者の居られる御家庭でも、何らかの形で家族そろつて祝福される事が望ましいと考えます。また青年団婦人会、部落会などに於ても、このような行事が持たれゝば、尚一そう有意義なと日なりましよう。

また、成人該当者となられた方々も、大人になつた事を十分に自覚すると共に次代をになう青年としての覚悟を新にし、自己の完成、社会の進展に尽されるよう御願いします。

昭和三十五年成人式

一、該当者　昭和十四年一月十五日から昭和十五年一月十四日迄に生れた者

二、期日　昭和三十五年一月十五日（金）

三、会場　大杉小学校講堂

四、日程　午前十時三十分より

（1）成人式典挙行

（2）記念撮影昼食のち

（3）フアツションショー（大豊村家政高等女学校生徒演出）

◇当日は該当者全員に記念品を贈呈し、出席者には祝餅を差し上げます。

◇該当者の方への案内状は別に個人宛出します。

ミズネズミ

その生態

今年は十二支では子（ネ）年である。福の神の使とも云われ、さまざまな俗信が生れている鼠族の生態を研究してみるのも無駄ではないだろう。

十二支とは子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥である。

この十二支（えと）を決めたのは家庭科辞典によると西暦約二千年の頃シナの夏の時代であり、いずれも数をかぞえる便利法として採用されたものが、シナの戦国時代の頃、無学の者にも覚え易いように鼠、丑、虎などの動物を十二支に配したのが迷信の起源となつたものである。

よく大道なんかで、十二支の絵を一面に書いた絵を前に占師が「子年の人は、細かなことに気がついて、無駄使いもせず掃除好きなり苦労のうちに貯めた金、色で失い、人に倒され、損をするなり」などと、うまいことを云つているが動物の性を押しつけられて自分の運命に自信を得たり自信をなくしたりするのも人間として情ないものである。

竹のムチをふりながら、子年生れの人は、正直、倹約貯蓄心に富み……などと、その口上を聞いているとネズミ公の習性に一脈相通ずるものがある。人間の個性には、動物的習性をそなえている者があるから、これを頭から否定してかゝることも慎しまねばならないが子年に生れた者が一様にこのような性質を宿命づけられているとは信じられない色々な俗信があるのも面白いが、我々に害こそ及ぼせ益のない鼠族ならぬ鼠賊について研究してみよう。

（公民館）

ドブネズミとクマネズミが代表的存在

今日、ネズミは陸地の至る所に棲み、われわれ人間にとつて身近かな動物として分布しており人間の生活する所、かならずネズミありというも、けつして過言ではない。

さて今日、全世界にひろく人間と共に繁栄しているネズミとしては、ドブネズミとクマネズミが最も代表的なものである、このうち、普通われ〳〵の住んでいる人家のなかに棲みついているのはクマネズミであるがこのクマネズミのクマは色の黒いことを意味するものである、このネズミの原産地であるインドやビルではかえつて毛色が黒くないのである、これは元来が野天に棲息していたもので、後に人家に棲みこむ様になつてから暗中の行動に適応すべく黒くなつたのではないかと臆測される、面白いことには、インドの文化が東漸し、または西漸するにつれてクマネズミも東は支那大陸、西はパレスチナからさらに十二世紀に、十字軍が遠征からヨーロッパへ帰還するとき、兵隊の大行進と一緒にヨーロッパへ入りこんだものであるといわれている。

クマネズミは元来が南国の産なので、初めのうちはシシリー島とか、せいぜいイタリヤ半島の両端の温い土地で野天生活をしていたがその後チーズや、バターの香にひかれて人家へ入りこむようになり、冬は人家という避難所をえて北へ北へと進出するようになつた、これと同時に毛色がだんだん黒くなつたのである。木や高い所に登ることがとても上手で、いざといえば天井裏に駈けあがつて難をさけ、一時は世界を股にかけてネズミ王国で覇をとなえたのであつたがその後繁殖力のとても旺盛なドブネズミの出現によつてこの勢力は次第に衰え、今日では極く小数が建物の上層に巣食つているにすぎない、いわばネズミの斜陽族である。

ねずみの天国

さてネズミの天国はどこか日本式の家屋の様式では屋根と天井とのあいだ、大きな空間がある、この空間はネズミにとつてこの上もないよき天国なのである。天井裏に棲みつくネズミは普通クマネズミであるが日本のような家屋ではむしろドブネズミのほうが多い、これが人間族の住宅難などどこ吹く風といつた態度で敷金もおかなければ間代も支払わず、おまけに家の壁には穴をあける、柱はかじる、食物は盗み取る、天井裏で時々運動会やら、さてはじめて安眠をさまたげる、実にわれわれ人間をなめきつている、そのなかでもペストほど人類に悲惨な記録を残したものはなかろう、ペストに関する記録はインド、アラビア、中国に古くからあり欧州においては実に悲惨な状態をくりひろげたのであつた。

紀元前四三〇年のアテナイのペストはついにアテナイを衰亡させ、さらにその後ローマ帝国の国力を耗弱させビザンチン帝国を没落へと追いこんだほどに猛威を逞しうした。

西紀前三〇〇年アレクサンドロス大王がフエニキヤを包囲したとき長期の攻撃にかかわらず、フエニキヤは容易に陥落しそうもなかつた、たまたまペストで死んだマケドニヤ兵の衣服を、夜陰にまぎれて敵兵が飲料に使用していた泉のなかに投げこんだところが、数日後、敵の陣営内にペストが流行して数千名の兵が病魔に倒れ、細菌戦術の効によつて、アレキサンドロスは敵地のなかを無敵の行軍を進めたということが伝えられている。

日本では明治二十七年に香港にペストが流行し、それがわが国と交通のあつた台湾にひろがり、さらにペスト患者は日本の港に散発的に現われていたこの時代にはペストの原因が、わが細菌学創設時代の大恩人たる北里柴三郎博士や、英国のグレーン、リストン博士の器械を考案してもネズミトリのインドでの研究でペストはネズミと関係がありその蚤が病源菌をはこぶということが次第に明確になつた、ペスト菌は暑さにたいしては抵抗が弱く、寒さには強い、そして血液や組織液などと共に乾燥したときはきわめて外界の変化に抵抗するので、冬に入ると流行しはじめるのである、ペストつを何回も食べるらしく大体自己の体重の四分の一ぐらいを一日に食べるというから、かりに二百グラムのネズミが二十匹いるとすれば毎日一キログラムの食物を食べる計算になるわけである。

ペスト

ここでわすれてならないことはペストである。人間の歴史がはじまつて以来各種の病源体によつて多数の人命が死の世界へともなわれ現在においてもなお、いろいろな伝染病の道づれにされている、そのなかでもペストほど人類に悲惨な記録を残したものはなかろう、ペストに関する記録はインド、アラビア、中国に古くからあり欧州においては実に悲惨な状態をくりひろげたのであつた。

紀元前四三〇年のアテナイのペストはついにアテナイを衰亡させ、さらにその後ローマ帝国の国力を耗弱させビザンチン帝国を没落へと追いこんだほどに猛威を逞しうした。

西紀前三〇〇年アレクサンドロス大王がフエニキヤを包囲したとき長期の攻撃にかかわらず、フエニキヤは容易に陥落しそうもなかつた、たまたまペストで死んだマケドニヤ兵の衣服を、夜陰にまぎれて敵兵が飲料に使用していた泉のなかに投げこんだところが、数日後、敵の陣営内にペストが流行して数千名の兵が病魔に倒れ、細菌戦術の効によつて、アレキサンドロスは敵地のなかを無敵の行軍を進めたということが伝えられている。

日本では明治二十七年に香港にペストが流行し、それがわが国と交通のあつた台湾にひろがり、さらにペスト患者は日本の港に散発的に現われていたこの時代にはペストの原因が、わが細菌学創設時代の大恩人たる北里柴三郎博士や、英国のグレーン、リストン博士の器械を考案してもネズミトリのインドでの研究でペストはネズミと関係がありその蚤が病源菌をはこぶということが次第に明確になつた、ペスト菌は暑さにたいしては抵抗が弱く、寒さには強い、そして血液や組織液などと共に乾燥したときはきわめて外界の変化に抵抗するので、冬に入ると流行しはじめるのである、ペストという病気は本来は齧歯類に属する動物の流行病なのであるが、この病原体を運ぶ蚤がネズミが死んでゆくと血を吸うものが少くなるので、人間の血をねらうようになり、ネズミの流行病を人間が頂戴するという有難くもない結果になる次第である。

ねずみ算

この様に人間共の他に対しネズミの被害は大きなものであるが、又繁殖率もすばらしいものである、私たちの小学校の頃の算数にネズミ算というのがあつた、一年に一回、一匹のネズミが九匹の子を生むとして、五年目には何匹になるかというような問題であつた、この算法で行くとなるほどネズミは夥しい繁殖率をもつて地上はたちまちネズミで充満され人間は彼等ネズミ族のために足の踏み場もないほどになつてしまうことは必定であろう、だがはつきりそのような兆候の見られないところをみるとかならずしもネズミ族がネズミ算式に繁殖していないにしてもネズミの繁殖の旺盛なことは古来定評のあるところである、ここに元の一つがいがいたらネズミは二ケ月半で親となり隔月にこどもを産んでゆき、一年後には九千四百三十四匹となる前記にちつとネズミの天国を記したが、それとは正反対にネズミ族にはありがたくない

ネズミ退治

虎退治ともなれば加藤清正ではないがその武勇を天下に讃えられもしようが、たかがネズミ退治では勇名を轟ろかすわけにはいかぬと大言壮語するなかれ、迂闊にしているとネズミ算戦法によつて人類の天下はネズミ族に支配されぬとも限らぬから油断は禁物、ネズミ退治などと悔どつてはなりません、ところでネズミ退治にはあの手この手とどんな理想的なネズミトリの器械を考案してもネズミトリの撲滅はとうていの困難であるだから毒ガスで全滅をはかるのが最も手ッ取り早いことになる、しかしこれをやつては人間もネズミと運命を共にする覚悟が必要といつてけ、だからといつて手放しでおくわけにいかないそこで捕殺か毒殺いずれかの方法がとられることになるネズミを駆除するにはまずネズミの出入口になるような個所をふさぐことである、しかしいくらふさいでもまたネズミはかじつてあけるからネズミと根気くらべの心構えが必要。ネズミの出入口としては、下水から台所に通ずる所がよく選ばれるから此処には鋳物かなるべく太い針金でつくつた金網を遮断し、一度かじられたところには殺鼠剤をまくか蒸つておけば二度とかじらない、次にわれわれの食物がネズミの餌にならぬよう仕末をすることで就寝前にかならず台所やその他を見まわつて片づける習慣をつけることが肝要である。ネズミに餌をあたえないでいると平均二日間ぐらいで死亡し、水だけだと二昼夜で死亡する、冬にはさらに短時間で死亡することがわかつている、食物が乏しくなつてくると、彼等はさかんに共食いをはじめ自然に減少することになる、そお安々とはゆくまいがこの問題については人間だけが永久に解決のためなやみつづけねばならぬ宿命を負わされているのではなかろうか。

今年はネの年でネズミ族にはちつときのどくな記事になつて申訳ない。

写真は一日旅行のメンバー

大畑井部落をあげて 1日旅行を実施

西峯地区の大畑井部落では去る十一月二十九日、部落をあげての一日旅行を試み明るい部落づくりに大なる成果を収めた。当日は同部落五十世帯七十二人が参加し龍ケ洞、大宮神社、永瀬ダム、片地などに旅行したもので、そのもようを三谷晶子さん、三谷晴喜さんより次のように寄稿して来た。

旅行記

三谷晶子

子供たちと共に待ちに待つた十一月二十九日!!それは私達大畑井部落の龍河洞、長瀬ダム、大ぢ方面見学旅行にあてられた一日だつたのです。まだ星の残る初冬の山路をよろこびの灯にてらされて集つた者老若男女七十二名の方達です。車の人となり汽車の人となり山田駅に着いた時は早一番の大畑井観光団のかけられた遊覧バスが待つて居りました。ガイドさんの美しい歌声と案内に耳を傾けながら美しい山畑を眺めて幸せをのせた車は龍河洞に向いました。

博物館前で記念撮影をする。白髪交りのアベツクで写真機の前に立つもの子供を中にシャツターを切つてもらうもの、あちらこちらによろこばしい姿が見えて居りました。洞内の美しさ大自然の偉大なる芸術に心うたれて唯々目を見張るばかりでございました。

そして幾千年か昔の人の生活が想われて悠遠の昔の夢路を辿るのでした再び車の人となり、ヨサコイ節をかわきりに大豊音頭を始め観光バスの歌などのど自まんが始り長瀬ダムへと向いました。

日曜日なのでダムの案内者がなくて残念におもいましたが二十八名の貴いギセイ者を出した、はじめて見るダムの立派さ大きさには唯々おどろき入るばかりでした。大どもではしばらくの時間が許され自由に町に出て居りましたが帰りは孫へのお土産の人形や日本刀、又美しい繪本などでバスの中はかざられて居りました一時三十分大畑井の大家族をのせたバスは動きだし家路に向つたのですが今日こそと浪曲まで飛び出す様なほんとうに楽しい一日でした。

共に楽しみ、共に食い、共に学ぶ、人間の共通のよろこびが大畑井五十世帯を一家族となす親和協力一致の貴い教えを一日旅行に体験したことを大きい収獲としてみんなで喜んだことでした。この体験を生かして明年もまた部落総員一日旅行をしようとゆう強い念願をもつて散会しました。一日旅行の計画準備に当られました三谷晴喜さま、三谷清さま、三谷太一さまの三氏に深き感謝の意を表しペンをおきます。

三谷晴喜

十一月二十九日、気づかはれた夕べの空模様も今朝は先代未聞の、この部落をあげての一日団体旅行を祝するが如き、夜明けの星はまばゆい程に澄み切つている午前五時五十分提灯の灯がそこからもあちらからも灯またゝく内に集まつて来た発起者の一人会計主任の三谷清さんが黙呼をとつている、全員時間かつちりに集合している。

出発予定の六時、準備完了二台の自動車は未だ明けやらぬ大畑井を後に壮途につい一家総出の家庭も三組もある。上は敬老会員の三名を始め下は保育園児に至る迄総員七十二名、部落中ぱかりの一行である。

だん〳〵明るくなるにつれて皆んなの笑顔がはつきりして来る、笑声が一入高く子供達は夢中にはしやいでいる。

この旅行は一ケ月程前に三谷清さん、三谷太一さん達が話し出した一門の語り合いが実を結びこんなに大きな一行となつたものである皆んなの喜びに満ちた表情子供達のおさえ切れない嬉しさの。しやぎ。を聞くにつけ、ふと小生もまだ一度も行つた事のない未踏の地丈けに一入に旅行団長としての責任の重大さが明け方の寒さと共にひし〳〵と身にしみる。どうかせめて今日一日だけでも皆んなが元気に無事に楽しく過させ給えと祈らずには居られない八時三十分山田駅前広場に待ち受けていた県交通の貸切遊覧バスに乗車し、今日の旅行内容及時間の打合せをすまし、ほつと一息。先づ龍ケ洞に向う。発車と共にバスガイドさんのなれなれしい美しい声が車内に流れ、次から〳〵と説明や歌の披露で遊覧、遊散気分が満ちて来た、こうして四十分をまたゝく内に過して龍ケ洞に到着、博物館を背景に一同記念写真を撮り、自由に入洞した、こうして予定にしたがつて次々と物部沿岸の名所を見物、中でも大栃町内の四十分間の自由見物中には物部の水に舌づゝみを打ち、ほろりと顔を赤らめて時間ぎり〳〵ばた〳〵かけ込む組、お迎えに行かねば帰つて来ない組も出来て来た。それでも団体旅行としての緊張もあつてか皆んな発車時間迄にはかつちりと帰つて来る。お蔭で帰途の車内は一入はがらかでマイクの声もほとんど内間の者でしめられた。

こうして物部沿岸になどやかなたのしい一日を過して十六時四十三分山田発列車で帰途につき、十八時五十分全く予定通りに再び県道終志に降り立ち一同今日のこの旅行について発起以来各方面の交渉、調査、集金と終始御世話を下さつた三谷清、三谷太一さんのお二人に心から感謝の意をのべ同時に毎年せめて年に一度はこうした機会をつくつて皆んな揃つて又参加出来る様一生懸命頑張ろうと誓つて解散した。

新春

中村大王　石原のぶ

つゝましき脇にはあれど四人の
吾児健やかに春を寿ぐ
あかときの気をふるはせて冴えゐと
社頭の鈴の四方にひゞかゆ
四人の吾子と並びて初春を
祈る社頭の清々しきも
輪かざりの厨清しく若水を
汲めば光のかすかに揺るゝ

夫の開腹手術に当りて

手術ゆく車台の夫が握りしめし
双手の温み抱きつゝ送る
いまのいま夫の開腹最中ならむ
神にひれふす心地にてまつ
手術終へしを告ぐるマイクの爽やかに
窓辺の花の赤さ目にしむ
手術終えし車台の夫のうつゝにも
我求むるにひたと手握る
嬰児に返りし夫に口ひとつ
動かし難きまのいとほし

雑詠　一首

詫を言う子を見つめ居る母我に
あやまち無しと誰か言うべき

光輝ある歳たらしめよう
理想の村へ明るさへ
四つとせ四つの村が協和し
豊も村財政の基礎が成る
再建整備の成果村